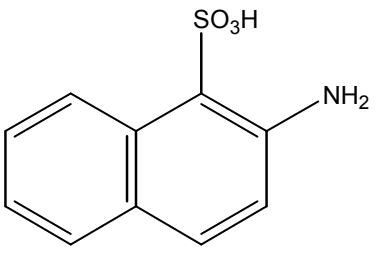
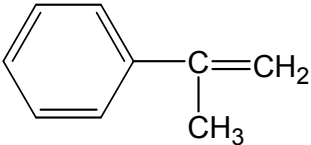


既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-493	CAS No.	81-16-3
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称： 2-アミノ-1-ナフトレンスルホン酸</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陽性 比活性値=22rev./mg (+S9mix 群：TA1535) +S9mix 群の TA 98, TA1535 において 2 倍を超える変異コロニーの誘発。 純度 98.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20 値=1.2mg/mL (+S9mix 群：構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発。 純度 98.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.2 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：2.2 mg/mL (細胞毒性のため 1.1 mg/mL まで観察) +S9mix 群：2.2 mg/mL (細胞毒性のため 1.1 mg/mL まで観察) 24 時間処理群：1.6 mg/mL (細胞毒性のため 0.8 mg/mL まで観察) 48 時間処理群：1.6 mg/mL (細胞毒性のため 0.8 mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5%CMC 水溶液	
	純度	98.7%	
	用量	4 投与群(8, 40, 200, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性：200 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性： 一般状態(流涎：1000♂♀) 絶対重量(肝↓：1000♂) 相対重量(肝↓：1000♂) 血液生化学的検査(Bil ↑：1000♂) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
他の毒性	-		
回復性	実施せず		

人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陽性、NOEL200mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。				
藻類生長阻害					
ミジンコ急性遊泳阻害					
ミジンコ繁殖阻害					
魚類急性毒性					
生態影響判定根拠					
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S60	0/30	—	0.5 (μg/L)
	底質	S60	0/30	—	0.007(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S61 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-5	CAS No.	98-83-9
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称： 1-メチルエチルベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, W P2 uvrA. 5000 μg/plate まで行った用量設定の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 400 μg/plate (200 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 400 μg/plate (TA1537 : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 400 μg/plate (200 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 400 μg/plate (TA98, TA100, TA1537 : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.20 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.17 mg/mL (細胞毒性のため 0.09mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 0.23 mg/mL (細胞毒性のため 0.12mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.17 mg/mL (細胞毒性のため 0.09mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.17 mg/mL (細胞毒性のため 0.09 mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	99.6%	
	用量	3 投与群 (40, 200, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(1000 : ♂1/10)	
NOEL	反復投与毒性 : 40 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day		

推定根拠	<p>反復投与毒性： 血液生化学的検査(GPT↑：200以上♂) 絶対重量(肝↑：200以上♀・1000♂) 相対重量(肝↑：200以上♀・1000♂、腎↑：200以上♀・1000♂) 組織学的所見(肝－肝細胞好酸性変化：200以上♀♂、 腎－尿細管上皮の硝子滴増加，好塩基性化：200以上♂、 尿細管上皮の空胞化：200以上♀、胸腺－萎縮：200以上♀)</p> <p>生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的な影響は認められていない</p>
他の毒性	<p>反復投与毒性： 体重↓：1000♂ 血液生化学的検査(BUN↑，TG↓，K↑，Clu↓：1000♂) 絶対重量(腎↑：1000♀♂、胸腺↓：1000♀) 相対重量(胸腺↓：1000♀) 剖検所見(膀胱－結石：1000♂) 組織学的所見(腎－リンパ球の浸潤：1000♀、 膀胱－粘膜上皮の増生・限局性びらん・粘膜下の炎症性細胞浸潤：1000♂ 副腎－束状帯の脂肪滴増加：1000♂♀)</p>
回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL40mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない
藻類生長阻害	<p>① 生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養（密閉系） 試験濃度：設定濃度 0.20、0.50、1.3、3.2、8.0、20 mg/L 実測濃度 0.13、0.30、0.79、1.9、5.0、13 mg/L（幾何平均値） 助剤：メチルセロソルブ及び HCO-30（1:1） 32 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=5.1 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.30 mg/L</p> <p>② 生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201（1984年） 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 40、50、60、70、80 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混液（1：1）最終濃度 100 mg/L 0-72hErC50（設定値に基づく）=65 mg/L（報告書中のデータを元に算出） 0-72hNOECr（設定値に基づく）=50 mg/L（報告書中のデータを元に算出）</p> <p>*揮発性物質</p>

<p>ミジンコ 急性遊泳 阻害</p>	<p>① 生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.87、1.6、2.9、4.8、8.5 mg/L（幾何平均値） 助剤：2-メトキシエタノール及び HCO-30(1:1) 100mg/L 48hEiC50（実測値に基づく）=2.6 mg/L</p> <p>② 生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202（1984 年）ただし、曝露期間は 48h で実施。 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 10、18、32、56、100 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混液（9：1）最終濃度は被験物質濃度と同じ 48hEiC50（設定値に基づく）=54 mg/L</p>
<p>ミジンコ 繁殖阻害</p>	<p>① 生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、週 3 回（16 日まで）又は 2 日毎に換水（16 日以降）（密閉系） 試験濃度：設定濃度 0.080、0.20、0.50、1.2、3.0 mg/L 実測濃度 0.067、0.16、0.40、1.0、2.4 mg/L（時間加重平均値） 助剤：HCO-60 及び DMF(1:1) 30 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.40 mg/L</p> <p>② 生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202（1984 年） 試験方式：半止水式、2 日に 1 回全量を換水 試験濃度：設定濃度 0.56、1.8、5.6、18、56 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混液（9：1）最終濃度は被験物質濃度と同じ 21dNOEC（設定値に基づく）=1.8 mg/L</p>

<p>魚類急性 毒性</p>	<p>① 生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 3.0、6.0、12、24、48 mg/L 実測濃度 2.6、5.0、9.4、21、45 mg/L（幾何平均値） 助剤：メチルセロソルブ及び HCO-30（1:1） 96 mg/L（最高濃度） 96hLC50（実測値に基づく）=7.3 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.6 mg/L 群：異常遊泳（72hr 1/10、96h 1/10） 5.0mg/L 群：異常遊泳（72hr 6/10、96h 7/10）</p> <p>② 生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203（1992 年） 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 6.3、9.5、14、21、32 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混液（4：1）最終濃度は 100 mg/L 96hLC50（設定値に基づく）=15 mg/L</p>
<p>他の毒性 情報</p>	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50=53 mg/L（設定値） ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOEC=40 mg/L（設定値） ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEiC50=54 mg/L（設定値） ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=1.8 mg/L（設定値） 魚類に対する毒性として ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=15 mg/L（設定値） ※環境庁実施試験</p>
<p>生態影響 判定根拠</p>	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=7.3mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
<p>備考</p>	<p>②の試験は、揮発性物質であるにも関わらず、開放系で実施した試験であること、また実測値の測定をしていないことから H8 に実施した試験（①）と結果が大きく異なると思われる。</p>

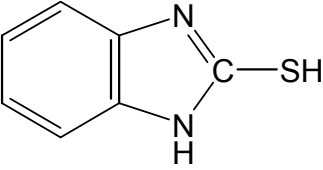
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-248	CAS No.	115-77-5
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称：ペンタエリスリトール</p> $ \begin{array}{c} \text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{HOH}_2\text{C}-\text{C}-\text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH}_2\text{OH} \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 92.7 %。溶媒（純水－溶解）。プレート法。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II)</p> <p>－S9mix 群：5000 μg/plate ＋S9mix 群：5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 92.7 %。溶媒（注射用蒸留水－溶解）。CHL/IU。 1.4 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。</p> <p>－S9mix 群：1.4 mg/mL ＋S9mix 群：1.4 mg/mL 24 時間処理群：1.4 mg/mL 48 時間処理群：1.4 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：5%CMC-Na 水溶液	
	純度	92.7%	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	－	
	NOEL	反復投与毒性：100 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性： 一般状態(軟便：300 以上♂♀、下痢：300 以上♂・1000♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない。	
他の毒性	反復投与毒性： 一般状態(飲水量↑：1000♂)		
回復性	実施せず		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない		

藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201（1984年） 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 100、180、320、580、1000 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく） > 1000 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく） > 1000 mg/L</p>				
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202（1984年） 試験方式：（半止水式、2日に1回全量を換水） 試験濃度： 設定濃度 0.1、1、10、100、1000 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： なし 24hEiC50（設定値に基づく） > 1000 mg/L</p>				
ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202（1984年） 試験方式： 半止水式、2日に1回全量を換水 試験濃度： 設定濃度 10、32、100、320、1000 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく） > 1000 mg/L</p>				
魚類急性 毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203（1992年） 試験方式： 半止水式、1日に1回全量を換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L（限度試験） 実測濃度 測定せず 助剤： なし 96hLC50（設定値に基づく） > 100 mg/L</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50 > 1000 mg/L ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOEC > 1000 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEiC50 > 1000 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC > 1000 mg/L 魚類に対する毒性として ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50 > 100 mg/L ※環境庁実施試験</p>				
生態影響 判定根拠	<p>72hEC50（藻類生長阻害試験、設定値に基づく。）及び 48hEC50（ミジンコ急性遊泳阻害試験、設定値に基づく。） > 1000mg/L、並びに 96hLC50（魚類急性毒性試験、設定値に基づく。） > 100mg/L であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC > 1000mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>				
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値

※1	水質	S52 H9	0/3 0/36	— —	4(μ g/L) 0.3(μ g/L)
	底質	S52 H9	0/3 0/33	— —	0.01(μ g/g-dry) 0.0055(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S53、H10、H13 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-472	CAS No.	583-39-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称： 2-メルカプトベンツイミダゾール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 98.5 %. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (本試験 II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性</p> <p>D20 値 = 2.2mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群および 48 時間処理群で構造異常の誘発. 純度 98.5 %. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.5 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.5 mg/mL +S9mix 群 : 1.5 mg/mL 24 時間処理群 : 0.39 mg/mL 48 時間処理群 : 0.39 mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%CMC 水溶液	
	純度	98.5%	
	用量	4 投与群(1.2, 4, 12, 40 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 (40 : ♂1/15)	
	NOEL	1.2 mg/kg/day 未満	
推定根拠	組織学的所見(甲状腺-濾胞細胞過形成・肥大 : 1.2 以上 ♂♀)		

他の毒性	<p>一般状態(被毛光沢不良：40♀)</p> <p>体重↓：12以上♂・40♀ 摂餌量↓：12以上♂・40♀</p> <p>尿検査(尿量↑：12以上♀・40♂、尿比重↓：12以上♂♀)</p> <p>血液学的検査(RBC↓：12以上♀、Hct↓：40♂♀、MCV↓：12以上♂、MCHC↑・Plt↓・RET↓：12以上♂・40♀、PT↑：40♂♀、APTT↑：40♂、WBC↓：40♀)</p> <p>血液生化学的検査(K↓：4以上♂♀、Ca↓：4以上♂、TP↑・Cho↑・BUN↑・Crn↑：12以上♂・40♀、TG↓・P↓：12以上♂、Na↑：12以上♀、Cl↓：12以上♂♀、γ-GTP↑、Alb↑：40♂♀、A/G↑・Bil↑：40♂、Glu↑、WBC↓：40♀)</p> <p>絶対重量(甲状腺↑：4以上♂・12以上♀、脳↓：40♂♀)</p> <p>相対重量(甲状腺↑：4以上♂・12以上♀、肝↑：12以上♂♀)</p> <p>組織学的所見(副腎一皮質空胞化：40♂♀)</p> <p>回復期</p> <p>血液学的検査(Hgb↓)</p>
回復性	<p>体重↓、RBC↓、Hct↓、甲状腺↑、甲状腺一濾胞細胞過形成・肥大</p>

他の毒性

[J. Toxicol. Sciences, **23**, 53 (1998)より引用]

反復投与試験

・Wistar Rat 強制経口投与 (2, 10, 50 mg/kg/day)、28 日間

NOEL : <2 mg/kg/day

体重↓(50♂♀)

摂餌量↓(50♂♀)

絶対重量(胸腺↓ : 2 以上♂♀、心↓・顎下腺↓ : 10 以上♂50♀、胸腺↓ : 10 以上♂、脾↓ : 50♂♀、肝↑・甲状腺↑・副腎↓ : 10 以上♀、卵巣↓ : 50♀、)

相対重量(胸腺↓ : 2 以上♂♀、肝↑・甲状腺↑ : 10 以上♂♀、心↓ : 10 以上♂50♀、腎↑ : 10 以上♀、脾↓・顎下腺↓ : 50♂♀、下垂体↑・副腎↑ : 50♂、卵巣↓ : 50♀)

血液生化学的検査(WBC↓ : 10 以上♀、Hct↓・PLT↓ : 50♂、APTT↑ : 50♂♀)

生化学的検査(TP↑・Alb↑・BUN↑・PL↑・F-CHO↑・CHE↑・γGTP↑・Na↑ : 50♂♀、Cl↓ : 50♂、A/G↓・CRN↑・TG↑・LAP↑ : 50♀、K↓ : 10 以上♂♀、CHO↑・Pi↓ : 10 以上♂・50♀)

組織学的所見(腎一集合管石灰化 : 50♂♀、

甲状腺一濾胞び慢性過形成・コロイド数減少 : 10 以上♂♀、
線維性皮膜肥厚 : 50♂♀、

下垂体一TSH 産生細胞増加 : 10 以上♂・50♀、

副腎一脂質保有細胞過形成 : 10 以上♂・50♀)

回復性

臓器重量(甲状腺↑・顎下腺↓・胸腺↓)

血液生化学的検査(A/G↓・PL↑・CHO↑・F-CHO↑・CHE↑・LAP↑・RBC↓・Hgb↓)

組織学的所見(甲状腺一濾胞び慢性過形成

下垂体一TSH 産生細胞増加)

[Fundam Appl Toxicol, **16**, 161 (1991)より引用]

反復投与試験

・F344/N Rat 吸入暴露 (3.1, 6.2, 12.5, 25.0, 50.0 mg/m³)、6 時/日、5 日/週、13 週間

NOEL : <3.1 mg/m³

体重↓(25 以上♂♀)

血液学的検査(WBC↓ : 3.1 以上♂、Hgb↓・Hct↓ : 12.5 以上♂♀、

RBC : 12.5 以上♀・25 以上♂、PT↑・APT↑ : 50.0♂♀)

血液生化学的検査(T3↓・T4↓12.5 以上♂、BUN↑・Cho↑・FFA↓ : 25.0♂♀)

絶対重量(肝↑ : 12.5♂・6.2-12.5♀、胸腺↓ : 3.1 以上♂♀、甲状腺↑ : 6.2 以上♂♀)

相対重量(胸腺↓ : 3.1 以上♂♀、肝↑ : 3.1 以上♀、甲状腺↑ : 6.2 以上♂♀)

組織学的所見(甲状腺一濾胞細胞過形成 : 3.1 以上♂♀、

胸腺一萎縮 : 12.5 以上♂・25.0 以上♀、

下垂体一細胞質空胞化 : 25.0 以上♂・12.5 以上♀

肝一肝細胞肥大 : 25.0 以上♂・50.0♀、肉芽性炎 : 50.0♂♀、

骨髓一造血細胞増殖 : 25.0 以上♂♀

腎一石灰化 : 25.0 以上♂、再生尿細管 : 25.0 以上♂♀、

副腎一皮質変性/壊死 : 25.0 以上♂♀、

腸間膜リンパ節一過形成 : 25.0 以上♂♀)

	<p>[Fundam Appl Toxicol, 25, 218 (1995)より引用]</p> <p>催奇形性試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Wistar Rat 強制経口投与 (3.3, 10, 30 mg/kg/day[妊娠 7~17 日]、60mg/kg/day[妊娠 7~10, 11~14, 15~17 日]) NOEL : 母体 : <3.3 mg/kg、生殖毒性 : 3.3 mg/kg 体重↓(30♀) 絶対重量(胸腺↓ : 3.3 以上♀、甲状腺↑ : 10 以上♀) 胎児死亡数↑(30) 胎児体重↓(10 以上) 外形検査(口蓋裂 : 80[11-14]) 内臓検査(尿管蛇行 : 10 以上、腎盂拡張 : 30) 骨格検査(短小過剰肋骨 : 30、胸骨分節不完全骨化・胸椎体不完全骨化 : 10 以上) 				
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は陽性、NOEL1.2mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当				
藻類生長阻害					
ミジンコ急性遊泳阻害					
ミジンコ繁殖阻害					
魚類急性毒性					
生態影響判定根拠					
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
※ 1	水質	S53	0/45	—	0.25~50(μ g/L)
	底質	S53	0/39	—	0.017~2.5(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※ 1 S54 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1799	判定案	623-26-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1, 4-ジシアノベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 ≥99 %. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (最高用量で被験物質の析出) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (最高用量で被験物質の析出) (本試験 II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (最高用量で被験物質の析出) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (2500 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 ≥99 %. 溶媒 (0.5% CMC Na-懸濁). CHL/IU. 1.3 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.3 mg/mL +S9mix 群 : 1.3 mg/mL 24 時間処理群 : 1.3 mg/mL 48 時間処理群 : 1.3 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 1% MC 水溶液	
	純度	>99%	
	用量	4 投与群(1.25, 5, 20, 80 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	5 mg/kg/day	
推定根拠	血液生化学的検査(TG ↑ : 20以上♂♀、PL ↑ : 20以上♂・80♀、Cl ↓ : 20以上♂) 絶対重量(腎 ↑ : 20以上♂) 相対重量(腎 ↑ : 20以上♂・80♀) 組織学的所見(甲状腺-濾胞コロイド減少 : 20以上♂)		

	他の毒性	体重↓：80♂♀ 摂餌量↓：80♂ 尿検査(尿比重↓・尿K↓・尿Cl↓：80♂♀、尿Na↓：80♀) 血液生化学的検査(Cho↑：80♀、 γ -GTP↑傾向：80♂) 絶対重量(脾臓↓：80♂♀、甲状腺↑：80♀、胸腺↓：80♂) 相対重量(甲状腺↑：80♂♀、肝↑：80♂♀、副腎↑：80♂) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：80♂ 腎-遠位尿細管拡張・上皮萎縮：80♂ 脾-リンパ濾胞萎縮：80♂ 甲状腺-濾胞不整形化：80♂) 電子顕微鏡所見(肝-小葉中心帯滑面小胞体↑：80♂) 回復期 腎-限局性尿細管上皮再生：80♂、 γ -GTP↑：80♂				
	回復性	腎↑、甲状腺↑、肝↑、脾臓↓				
	備考	ReproTox 試験の組織学的所見における、腎の近位尿細管上皮硝子滴沈着は、免疫組織学的検査により α_{2u} -グロブリンの陽性反応が確認されており、雄ラットが特異的に産生する α_{2u} -グロブリンと化学物質複合体の蓄積により発現すると判断されることから、毒性として評価しなかった。				
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL5mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当					
藻類生長阻害						
ミジンコ急性遊泳阻害						
ミジンコ繁殖阻害						
魚類急性毒性						
生態影響判定根拠						
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値	
	水質	S56	0/15	—	0.1~5(μ g/L)	
	底質	S56	0/15	—	0.001~0.05(μ g/g-dry)	
	魚類	—	—	—	—	
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)					

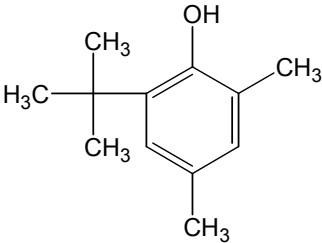
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-308	CAS No.	1477-55-0
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p>		
名称 構造式等	<p>名称：1, 3-ビス (アミノメチル) ベンゼン</p> <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.8 %. 溶媒 (純水-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.8 %. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). CHL/IU. 1.40mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 0.33 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群 : 0.47 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 0.33 mg/mL (細胞毒性のため 0.17 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.33 mg/mL (細胞毒性のため 0.17 mg/mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 局方精製水	
	純度	99.8%	
	用量	4 投与群(10, 40, 150, 600 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 600 : 1/12♂・4/12♀	
	NOEL	150 mg/kg/day	

	推定根拠	<p>一般状態(自発運動↓・立毛：600♂♀) 体重↓：600♂ 摂餌量↓：600♂ 血液学的検査(Hct↓・Hgb↓：600♂) 血液生化学的検査(TP↓・Pi↑：600♂、TG↑：600♀) 尿検査(尿タンパク↑：600♂) 絶対重量(副腎↑：600♀) 相対重量(副腎↑：600♂♀) 剖検所見(盲腸－膨満：600♂♀) 組織学的所見(前胃－潰瘍・粘膜下炎症・棘細胞増生／角化亢進：600♂♀、腺胃－粘膜糜爛：600♂♀、 副腎－皮質細胞空胞化：600♂♀、束状帯細胞肥大：600♀ 骨髄－顆粒球系造血細胞↑：600♂♀) 回復期 胃－前胃粘膜下組織繊維化：600♂♀</p>
	他の毒性	－
	回復性	組織学的所見(前胃－潰瘍・棘細胞増生／角化亢進・粘膜下織炎症／線維化)
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方精製水
	純度	99.8%
	用量	3投与群(50, 150, 450 mg/kg/day)
	死亡	本試験 150：1/12♂、450：3/12♂・1/12♀
	NOEL	反復投与：150 mg/kg/day 生殖発生：450 mg/kg/day
	推定根拠	<p>反復投与毒性： 体重↓(450♂♀) 摂餌量↓(450♂♀) 絶対重量(胸腺↓：450♂♀、副腎↑：450♂) 相対重量(副腎↑：450♂♀) 組織学的所見(前胃－潰瘍・線維化・角化亢進／棘細胞増生：450♂♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性： － 生殖発生毒性： －</p>
	回復性	－
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL150mg/kg/day (簡易生殖試験においてはNOEL150mg/kg/day) であることから第二種監視化学物質相当でない。	
藻類生長阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 1.0、2.2、4.8、11、23、50 mg/L 実測濃度 0.80、1.8、4.3、9.8、22、48 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =28 mg/L (報告書中のデータに基づき算出) 0-72hNOECr (実測値に基づく) =9.8 mg/L (報告書中のデータに基づき算出)</p>	

ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 5.0、8.9、16、28、50 mg/L 実測濃度 5.0、9.0、16、28、50mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（設定値に基づく）=15 mg/L</p>
ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.15、0.47、1.5、4.7、15 mg/L 実測濃度 0.16、0.51、1.6、4.8、15 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（設定値に基づく）=4.7 mg/L</p>
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 10、18、32、56、100 mg/L 実測濃度 10、18、33、58、100 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=88 mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>72hEC50=28mg/L（藻類生長阻害試験、設定値に基づく。）、48hEC50=15mg/L（ミジンコ急性遊泳阻害試験、設定値に基づく。）及び96hLC50=88mg/L（魚類急性毒性試験、設定値に基づく。）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=4.7mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

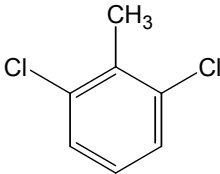
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-540	CAS No.	1879-09-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 現時点で収集されたデータからは判断できない。		
名称 構造式等	名称：6-tert-ブチル-2,4-キシレノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98.5 %。溶媒 (DMSO-溶解)。プレート法。 5000 μg/plate まで用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群：200 μg/plate (TA100, TA1537：100 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1535, WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：200 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (TA98, TA100, TA1535： 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：200 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537： 100 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：200 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (TA100：200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1535, WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 98.5 %。溶媒 (DMSO-溶解)。CHL/IU。 0.15 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.033 mg/mL (細胞毒性のため 0.017 mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.056 mg/mL (細胞毒性のため 0.028mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.033 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群：0.033 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		

反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油
	純度	98.5 %
	用量	3 投与群(6, 30, 150 mg/kg/day)
	死亡	本試験 150 : ♀ 2/12
	NOEL	反復毒性 : 6 mg/kg/day 生殖発生 : 30mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性 : 血液生化学的検査(TP ↑・Alb ↑・γ-GTP ↑ : 30 以上♂) 相対重量(肝 ↑ : 30 以上♂・150 ♀) 生殖発生毒性 : 分娩中母体死亡、着床数 ↓ : 150
他の毒性	反復投与毒性 : 血液学的所見(Hct ↓・Hgb ↓・RBC ↓・Ret ↑ : 150♂) 血液生化学的検査(K ↓ : 150♂) 絶対重量(肝 ↑・腎 ↑ : 150♂) 相対重量(腎 ↑ : 150♂♀) 組織学的所見(肝—小葉中心性肝細胞腫大 : 150♂♀、肉芽腫 : 150 ♀、有糸分裂・小葉中心性壊死・単細胞壊死 : 150 ♀ 腎—腎尿管好塩基化 : 150♂、近位尿管変性・腎乳頭 PAS 陽性顆粒沈着 : 150 ♀ 乳腺—増生 : 150 ♀ 副腎—空胞化 : 150♂♀ 生殖発生毒性 : —	
回復性	実施せず	
人健康影響判定根拠	Ames 試験、染色体異常試験は陰性であるが、NOEL6mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当	
藻類生長阻害	① 生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 (1984 年) 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 1.0、1.7、3.1、5.6、10 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤 : DMSO 12.3 mg/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) > 10 mg/L (報告書中のデータに基づき算出) 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 1 mg/L (報告書中のデータに基づき算出)	
ミジンコ急性遊泳阻害	① 生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 (1984 年) ただし曝露期間は 48h で実施 試験方式 : 止水式 試験濃度 : 設定濃度 1、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤 : DMSO・HCO-40 混合液 (9 : 1) 最終濃度は被験物質濃度のそれぞれ 100 倍 48hEiC50 (設定値に基づく) = 5.6 mg/L	

ミジンコ 繁殖阻害	<p>① 生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202（1984年） 試験方式：半止水式、2日に1回全量を換水 試験濃度：設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、3.2 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混合液（9：1）最終濃度は被験物質濃度のそれぞれ100倍 21dNOEC（設定値に基づく）＝0.32 mg/L</p>																				
魚類急性 毒性	<p>① 生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203（1992年） 試験方式：半止水式、1日に1回全量を換水 物質濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO・HCO-40 混合液（4：1）最終濃度は被験物質濃度のそれぞれ99倍 96hLC50（設定値に基づく）＝4.4 mg/L なお、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 5.6 mg/L 群：横転水面浮上（曝露開始6時間後、頻度不明） 10 mg/L 群：横転水面浮上（曝露開始6時間後、頻度不明）</p>																				
他の毒性 情報	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50=3.6 mg/L ・<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOEC=1.7 mg/L ミジンコに対する毒性として ・<i>Daphnia magna</i> 24hEC50=5.6 mg/L ・<i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.32 mg/L 魚類に対する毒性として ・<i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=4.4 mg/L ※環境庁実施試験</p>																				
生態影響 判定根拠	現時点で得られている毒性情報は判定に不十分であるため判断できない。																				
環境調査 ※1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>媒体</th> <th>実施年度</th> <th>検体</th> <th>検出範囲</th> <th>検出下限値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水質</td> <td>H9</td> <td>0/165</td> <td>—</td> <td>0.5(μg/L)</td> </tr> <tr> <td>底質</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値	水質	H9	0/165	—	0.5(μg/L)	底質	—	—	—	—	魚類	—	—	—	—
媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値																	
水質	H9	0/165	—	0.5(μg/L)																	
底質	—	—	—	—																	
魚類	—	—	—	—																	
備考	<p>※1 H10版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p> <p>①の試験は、助剤を用いて溶解させて実施しているが被験物質濃度を実測していないことや助剤濃度が一定していないこと及び助剤濃度が高いものがあること等に基づき総合的に判断して、第三種監視化学物質の判定に用いるべきでないと考えます。</p>																				

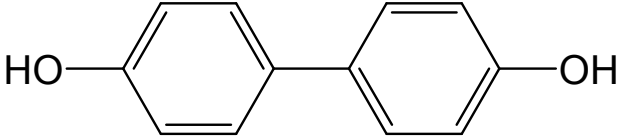
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-78	CAS No.	118-69-4
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 現時点で収集されたデータからは判断できない。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称： 2, 6-ジクロロトルエン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.6 %。 溶媒 (DMSO-溶解)。 プレート法。</p> <p>5000 μg/plate まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA。</p> <p>(本試験 I)</p> <p>-S9mix 群： 150 μg/plate (75.0 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群： 600 μg/plate (TA100, TA1535： 300 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1537, WP2uvrA： 最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>(本試験 II)</p> <p>-S9mix 群： 150 μg/plate (TA1537： 75.0 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2uvrA： 最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群： 600 μg/plate (TA98, TA1535, TA1537, WP2uvrA： 300 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA100： 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.6 %。 溶媒 (DMSO-溶解)。 CHL/IU。</p> <p>0.16 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。</p> <p>-S9mix 群： 0.033 mg/mL (細胞毒性のため 0.017mg/mL まで観察)</p> <p>+S9mix 群： 0.096 mg/mL (細胞毒性のため 0.048 mg/mL まで観察)</p> <p>24 時間処理群： 0.069 mg/mL (細胞毒性のため 0.035 mg/mL まで観察)</p> <p>48 時間処理群： 0.069 mg/mL (細胞毒性のため 0.035 mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒： コーン油	
	純度	99.2%	
	用量	4 投与群(30, 100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与： 30 mg/kg/day 生殖発生毒性： 100 mg/kg/day	
推定根拠	<p>反復投与毒性：</p> <p>組織学的所見(腎-好酸性小体： 100以上μ)</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>哺育行動\downarrow： 300 以上</p>		

	他の毒性	反復投与毒性： 一般状態(自発運動↓・腹臥位・流涎：1000♂♀、半眼：1000♀) 体重↓(300以上♂・1000♀) 血液生化学的検査(Glu↓：300以上♂、Pi↑：1000♂) 相対重量(腎↑：300以上♂・1000♀、肝↑：1000♂♀) 組織学的所見(腎—近位尿細管空胞変性・脂肪変性：1000♀ 肝—小葉中心性肝細胞肥大：300以上♂♀、小葉中心性肝細胞 曇り硝子様変性：1000♂ 脾—褐色色素沈着：1000♂♀ 胸腺—萎縮：300以上♀ 精巣—限局性精細管萎縮：300以上♂) 生殖発生毒性： —
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。	
藻類生長阻害	① 生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984年) 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 1.5、2.8、5.0、9.0、16 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： Tween80 (ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノオレエート)・アセトン混液(1：1) 最終濃度は被験物質濃度の9倍 0-72hErC50 (設定値に基づく) > 16 mg/L (報告書中のデータを元に算出) 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 5 mg/L (報告書中のデータを元に算出)	
ミジンコ急性遊泳阻害	① 生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 (1984年) 試験方式： (半止水式、2日に1回全量を換水) 試験濃度： 設定濃度 1、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： Tween80 最終濃度は被験物質濃度の10倍 24hEiC50 (設定値に基づく) = 1.8 mg/L 24hEiC50 (設定値に基づく) = 1.9 mg/L (2回目だけの結果を使用)	
ミジンコ繁殖阻害	① 生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 (1984年) 試験方式： 半止水式、2日に1回全量を換水 試験濃度： 設定濃度 0.18、0.32、0.56、1.0、1.8 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤： Tween80 最終濃度は被験物質濃度の10倍 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.32 mg/L	

魚類急性 毒性	① 生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203（1992年） 試験方式：半止水式（1日に1回全量を交換） 物質濃度：設定濃度 1.7、3.1、5.6、10、18 mg/L 実測濃度 測定せず 助剤：DMSO 最終濃度 550 mg/L 96hLC50（設定値に基づく）= 6.4 mg/L				
他の毒性 情報	[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50=18 mg/L（設定値） ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOEC=10 mg/L（設定値） ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEiC50=1.8 mg/L（設定値） ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.32 mg/L（設定値） 魚類に対する毒性として ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=6.4 mg/L（設定値） ※環境庁実施試験				
生態影響 判定根拠	現時点で得られている毒性情報は判定に不十分であるため判断できない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/21	—	8~80(μ g/L)
	底質	S56	0/21	—	0.2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S57版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） ①の試験は、非密閉系の試験があること、助剤を用いて溶解させて実施しているが被験物質濃度を実測していないことや助剤の使用濃度が高いものがあること等に基づき総合的に判断して、第三種監視化学物質の判定に用いるべきでないとする。				

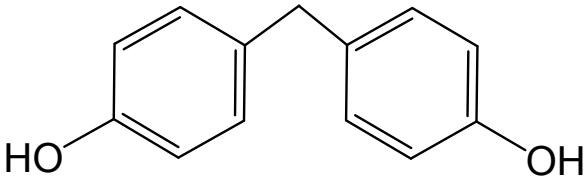
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-820	CAS No.	92-88-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：4,4'-ヒ [°] フェニルジ [°] オール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.96%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：2500 μg/plate (TA100:1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate(TA98,TA1535,TA1537:2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2uvrA：最高用量で被験物質の析出) +S9mix 群：2500 μg/plate (TA100:1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate(TA98,TA1535,TA1537:2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2uvrA：最高用量で被験物質の析出) (本試験 II) -S9mix 群：2500 μg/plate (TA100:1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate(TA98,TA1535,TA1537:2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2uvrA：最高用量で被験物質の析出) +S9mix 群：2500 μg/plate (TA100:1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate(TA98,TA1535,TA1537:2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2uvrA：最高用量で被験物質の析出)		
染色体 異常	陽性 D20=0.14mg/mL (+S9mix 群：構造異常) ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 99.96%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). CHL/IU 1.9mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 +S9mix 群：0.48 mg/ mL(細胞毒性のため 0.12mg/mL まで観察) -S9mix 群：0.48mg/ mL(細胞毒性のため 0.12mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5% CMC-Na 水溶液	
	純度	99.96%	
	用量	3 投与群 (8, 40, 200 mg/kg/day)	
	死亡	-	
NOEL	反復投与毒性：8mg/kg/day 生殖発生毒性：200 mg/kg/day		

	推定根拠	<p>反復投与毒性：</p> <p>尿検査(尿比重↓：40以上♀)</p> <p>組織学的所見(腎－好酸性小体↑：40以上♂)</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>全群で特に毒性学的な影響は認められていない</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性：</p> <p>一般状態(尿白濁：200♂♀)</p> <p>絶対重量(副腎↓：200♂)</p> <p>相対重量(肝↑：200♂)</p> <p>尿検査(沈渣(シュウ酸カルシウム様結晶)↑：200♂♀)</p> <p>組織学的所見(小葉中心性肝細胞肥大・門脈周囲脂肪化減少：200♂)</p>
	回復性	問題なし
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるも、染色体異常試験は陽性、NOEL8mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当	
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>試験濃度： 設定濃度 0.050、0.11、0.23、0.48、1.0、2.2、4.7、10 mg/L</p> <p>実測濃度 0.041、0.099、0.21、0.45、0.91、2.0、4.4、10 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： DMF 100 μ L/L</p> <p>0-72hErC50 (実測値に基づく) =5.7 mg/L (報告書中のデータに基づき算出)</p> <p>0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.45 mg/L (報告書中のデータに基づき算出)</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 半止水式、24 時間後に換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 0.50、0.85、1.4、2.4、4.1、7.0 mg/L</p> <p>実測濃度 0.51、0.86、1.4、2.5、4.2、7.3 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： DMF 61 mg/L</p> <p>48hEiC50 (実測値に基づく) =1.8 mg/L</p>	
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 0.040、0.11、0.28、0.75、2.0 mg/L</p> <p>実測濃度 0.042、0.11、0.29、0.79、2.2 mg/L (時間加重平均値)</p> <p>助剤： DMF 100 μ L/L</p> <p>21dNOEC (実測値に基づく) =0.11 mg/L</p>	

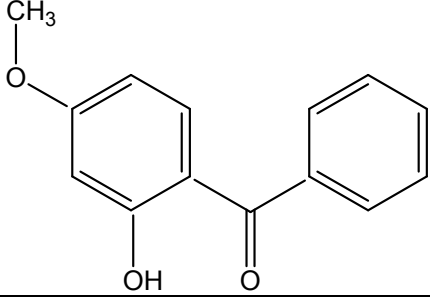
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 3.0、5.3、9.5、17、30 mg/L 実測濃度 3.0、5.6、9.6、17、30 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）=13 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 5.6 mg/L 群：異常遊泳（72hr 3/10、96hr 4/10） 表層集中（96hr 2/10） 9.6 mg/L 群：異常遊泳（24hr 8/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 10/10） 表層集中（96hr 1/10）</p>
生態影響 判定根拠	<p>72hEC50=5.7mg/L（藻類生長阻害試験）、48hEC50=1.8mg/L（ミジンコ急性遊泳阻害試験）、96hLC50=13mg/L（魚類急性毒性試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.11mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-90	CAS No.	620-92-8
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称： 4,4'-メチレンジフェノール</p>  <p>The image shows the chemical structure of 4,4'-methylenebisphenol, which consists of two phenol rings connected by a methylene group (-CH2-) at the para positions. Each ring has a hydroxyl group (-OH) at the para position relative to the methylene bridge.</p>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.91%. 溶媒 (DMSO-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I)</p> <p>–S9mix 群：2500 μg/plate(TA98,TA100,TA1535,TA1537: 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：2500 μg/plate(TA98,TA100,TA1535,TA1537: 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>(本試験 II)</p> <p>–S9mix 群：2500 μg/plate(TA98,TA100,TA1535,TA1537: 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：2500 μg/plate(TA98,TA100,TA1535,TA1537: 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性</p> <p>D20=0.26mg/mL (–S9mix 群：構造異常) ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 99.91%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU 2.0mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 –S9mix 群：0.28mg/ mL (細胞毒性のため 0.19mg/ mL まで観察) +S9mix 群：0.28mg/ mL (細胞毒性のため 0.19mg/ mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.91%	
	用量	3 投与群 (60, 250, 1000 mg/kg/day)	

	死亡	—
	NOEL	60 mg/kg/ day
	推定根拠	血液生化学的検査(CHO ↓ : 250 以上♂♀、AIP ↑ : 250 以上♀) 相対重量(肝 ↑ : 250 以上♂♀、副腎 ↑ : 250 以上♀、腎 ↑ : 250 以上♂) 組織学的検査(副腎—束状帯細胞び慢性肥大 : 250 以上♀)
	他の毒性	体重 ↓ : 1000♂ 一般状態(流涎・腹臥位・うずくまり・自発運動低下・歩行失調・閉眼 : 1000♂♀) 血液生化学的検査(TG ↑ ・γ-GTP ↑ : 1000♀) 尿検査(pH ↓ : 1000♂♀) 絶対重量(肝 ↑ : 1000♂♀、副腎 ↑ : 1000♀) 組織学的所見(肝—小葉中心性肝細胞肥大 : 1000♂♀)
	回復性	問題なし
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性、NOEL60mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。	
藻類生長阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 0.08、0.24、0.74、2.2、6.7、20 mg/L 実測濃度 0.081、0.25、0.76、2.2、6.6、21 mg/L (算術平均値) 助剤 : なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =16 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.76 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 試験濃度 : 設定濃度 5.4、7.0、9.1、12、15、20 mg/L 実測濃度 5.4、7.0、9.1、12、15、20 mg/L (算術平均値) 助剤 : なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =12 mg/L	
魚類急性毒性	生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法 : OECD-TG203 試験方式 : 半止水式、48 時間毎に換水 物質濃度 : 設定濃度 5.4、7.0、9.1、12、15、20 mg/L 実測濃度 5.4、7.0、9.1、12、16、20 mg/L (算術平均値) 助剤 : なし 96hLC50 (実測値に基づく) =13 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 12 mg/L 群 : 異常呼吸 (24hr 4/7、48hr 2/5、72hr 5/5、96hr 5/5) 異常遊泳 (24hr 2/7、48hr 0/5) 痙攣 (24hr 2/7) 平衡喪失 (24hr 2/7、72hr 1/5)	
生態影響判定根拠	72hEC50=16mg/L (藻類生長阻害試験)、48hEC50=12mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験)、96hLC50=13mg/L (魚類急性毒性試験) であり、かつ藻類生長阻害試験において21dNOEC=0.76mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-130	CAS No.	131-57-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.21、0.47、1.0、2.3、5.0 mg/L 実測濃度 0.08、0.18、0.45、1.0、2.2 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.67 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.18 mg/L</p> <p>① 濃度低下の原因は試験液調製時のフィルターろ過によるものとしている。 ② 対照区の毎日の生長速度の変動係数 32%</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.63、0.95、1.4、2.1、3.2、4.8 mg/L 実測濃度 0.51、0.78、1.2、1.7、2.6、3.9 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEiC50（実測値に基づく）=1.9 mg/L</p>		

魚類急性
毒性

生物種：ヒメダカ *Oryzias latipes*

試験法：化審法 TG

試験方式：半止水式、24 時間毎に換水

物質濃度：設定濃度 (本試験) 0.73、1.0、1.4、2.0、2.8、3.9、5.5 mg/L

(再試験) 2.3、2.7、3.3、3.9、4.7 mg/L

実測濃度 (本試験) 0.49、0.72、1.1、1.5、2.2、3.3、4.7 mg/L

(時間加重平均値)

(再試験) 1.7、2.1、2.7、3.2、3.9 mg/L (時間加重平均値)

助剤：なし

96hLC50 (初回本試験の実測値に基づく) =3.8 mg/L

96hLC50 (再試験の実測値に基づく) =3.6 mg/L

また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。

(本試験)

1.5 mg/L 群：異常呼吸(24hr 1/7、48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 3/6)

過敏反応(24hr 1/7、48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 2/6)

痙攣(96hr 1/6)

水面浮上(48hr 1/7、72hr 1/7)

2.2 mg/L 群：異常呼吸(24hr 3/7、48hr 5/7、72hr 5/7、96hr 5/7)

遊泳緩慢(48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 2/7)

過敏反応(24hr 1/7、48hr 4/7、72hr 2/7、96hr 1/7)

痙攣(72hr 2/7、96hr 1/7)

水面浮上(48hr 3/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

3.3 mg/L 群：異常呼吸(24hr 6/7、48hr 7/7、72hr 7/7、96hr 6/6)

遊泳緩慢(48hr 3/7、72hr 3/7、96hr 2/6)

過敏反応(48hr 1/7、96hr 1/6)

痙攣(24hr 4/7、48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 3/6)

水面浮上(24hr 2/7、48hr 1/7、72hr 3/7、96hr 1/6)

(再試験)

1.7 mg/L 群：異常呼吸(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 2/7)

遊泳緩慢(96hr 1/7)

過敏反応(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 2/7、96hr 2/7)

水面浮上(48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

2.1 mg/L 群：異常呼吸(24hr 1/7、48hr 4/7、72hr 4/7、96hr 4/7)

遊泳緩慢(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

過敏反応(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 2/7)

痙攣(24hr 3/7、48hr 2/7、72hr 3/7、96hr 2/7)

水面浮上(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

2.7 mg/L 群：異常呼吸(24hr 7/7、48hr 7/7、72hr 7/7、96hr 7/7)

遊泳緩慢(24hr 1/7、48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 1/7)

過敏反応(96hr 1/7)

痙攣(24hr 1/7、48hr 3/7、72hr 2/7、96hr 3/7)

反転(24hr 1/7)

水面浮上(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

背曲がり(24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

3.2 mg/L 群：異常呼吸(24hr 7/7、48hr 7/7、72hr 7/7、96hr 7/7)

遊泳緩慢(24hr 2/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

過敏反応(48hr 1/7、96hr 1/7)

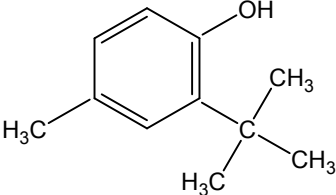
痙攣(24hr 2/7、48hr 3/7、72hr 4/7、96hr 4/7)

横転(96hr 1/7)

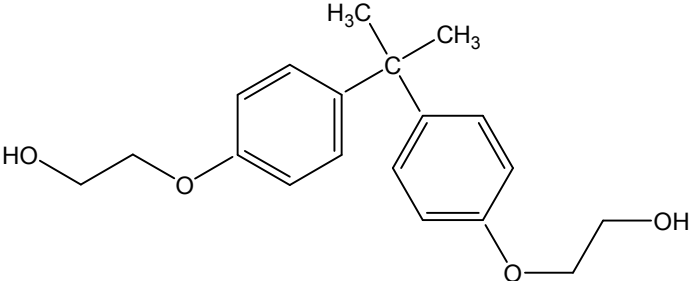
水面浮上(24hr 1/7、72hr 1/7、96hr 1/7)

	<p>3.9 mg/L 群：異常呼吸(24hr 5/5、48hr 5/5、72hr 4/4、96hr 1/1) 遊泳緩慢(48hr 1/5、72hr 2/4) 過敏反応(24hr 1/5、96hr 1/1) 痙攣(24hr 4/5、48hr 3/5、72hr 2/4、96hr 1/1) 横転(72hr 2/4) 水面停止(72hr 1/4)</p> <p>① 1 回目の本試験において死亡率の逆転現象が認められたことから、確認を行うために再試験を実施した。 ② 再試験を実施した結果、死亡率の逆転現象は生じなかったことから、判定のための毒性値は再試験のものを採用した。</p>
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.67mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

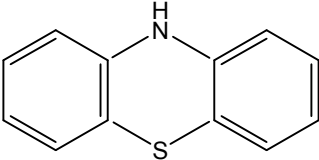
官報公示 整理番号	3-521	CAS No.	2409-55-4
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-tert-ブチル-p-クレゾール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.087、0.19、0.41、0.89、2.0、4.2、8.9 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=1.8 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.19 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 1.1、2.0、3.5、5.8、11 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEiC50（実測値に基づく）=2.7 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、2.2、2.6、3.2 mg/L 実測濃度 0.28、0.50、0.90、1.6、2.1、2.3、2.8 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=1.9 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.50 mg/L 群：上層遊泳（96hr 2/10） 0.90 mg/L 群：上層遊泳（48hr 2/10、72hr 1/9） 1.6 mg/L 群：上層遊泳（48hr 2/9、72hr 3/9、96hr 3/9） 横臥（24hr 1/9、48hr 1/9、72hr 2/9、96hr 1/9） 2.1mg/L 群：横臥（24hr 5/8、48hr 6/6、72hr 6/6、96hr 6/6）		
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.9mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-178 4-916	CAS No.	901-44-0
判定結果	生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名称：2, 2-ビス [4 - (2-ヒドロキシエトキシ) フェニル] プロパン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 1.3、2.8、6.2、14、30 mg/L 実測濃度 0.95、2.0、4.5、9.7、22 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =17 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.95 mg/L</p> <p>① 試験開始時の濃度減少の原因はフィルターろ過によるものとしている。 ② 対照区の毎日の生長速度の変動係数が 29%</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 10、13、17、22、29 mg/L 実測濃度 12、15、19、26、34 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (実測値に基づく) >34 mg/L</p> <p>① 水溶解度は 30mg/L 程度と試験機関は考えている。</p>		
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 2.7、4.9、8.9、16、29 mg/L 実測濃度 3.2、5.7、10、17、34 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =21 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 17 mg/L 群：過敏反応(72hr 1/6)</p> <p>①水溶解度は 30mg/L 程度と試験機関は考えている。</p>		

生態影響 判定根拠	72hErC50=17mg/L (藻類生長阻害試験)、48hEC50>34mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験)、96hLC50=21mg/L (魚類急性毒性試験) であり、かつ藻類生長阻害試験において72hNOECr=0.95mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-908	CAS No.	92-84-2
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：フェノチアジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.0010、0.0032、0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L 実測濃度 <0.05、<0.05、<0.05、<0.05、0.10、0.34、1.0 mg/L (初期実測値) 助剤：DMF 0.1 mL/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) =0.74 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =0.10 mg/L ① 光分解性のため、試験濃度区の大半が検出限界以下であることから、毒性値の算出に設定値を使用している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 0.0046、0.010、0.022、0.046、0.10、0.22、0.46 mg/L 実測濃度 <0.05、<0.05、<0.05、0.05、0.11、0.23、0.50 mg/L (初期実測値) 助剤：DMF 0.1 mL/L 48hEiC50 (設定値に基づく) =0.055 mg/L ① 光分解性のため、暗条件下での暴露を実施している。 ② 定量限界が 0.05mg/L であるので、大半の濃度区で実測できなかったため毒性値の算出に際しては、設定値を用いている。		

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.15、0.22、0.32、0.46、0.68、1.0 mg/L 実測濃度 0.08、0.13、0.20、0.29、0.43、0.64、0.96 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 0.1 mL/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.96 mg/L 120hrLC50（実測値に基づく）=0.78 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>0.43 mg/L 群：水面浮上（24hr 3/10、48hr 8/10） 不活発（72hr 3/10、96hr 3/10、120hr 4/10）</p> <p>0.64 mg/L 群：水面浮上（24hr 5/10、48hr 4/10） 不活発（72hr 1/9、96hr 1/7、120hr 1/5） 異常遊泳（24hr 1/10、48hr 3/10、72hr 7/9、96hr 5/7、120hr 2/5） 横転（24hr 4/10、48hr 3/10、72hr 1/9、96hr 1/7、120hr 2/5）</p> <p>0.96 mg/L 群：水面浮上（24hr 1/10） 異常遊泳（48hr 1/10、72hr 1/8） 横転（24hr 9/10、48hr 9/10、72hr 7/8、96hr 7/7、120hr 5/5）</p> <p>① 光分解性のため、暗条件下での暴露を実施している。 ② 難水溶性のため、暴露時間を 120 時間まで延長している。</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.74mg/L、0-72hNOECr=0.1mg/L 及びミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.055mg/L、魚類急性毒性試験において 96hrLC50>0.96mg/L（溶解限度）であるものの横転等の重篤な症状が認められかつ 120hrLC50=0.78mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S61	0/24	—	0.5(μg/L)
	底質	S61	0/24	—	1.5(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S62 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p> <p>①本物質は光分解性であるため暗条件下で試験が実施されており、明条件下における毒性は変化する可能性があることに留意が必要である。</p>				

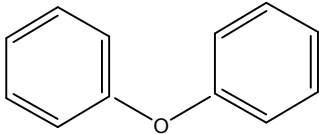
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-521 3-526	CAS No.	96-76-4
判定結果	<p>人健康影響 第二種監視化学物質【平成 18 年 7 月 14 日告示済み】</p> <p>生態影響 第三種監視化学物質相当</p>		
名称 構造式等	<p>名称：2,4-ジ tert-ブチルフェノール</p> <div style="text-align: center;"> </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	<p>陰性</p> <p>純度 99.67%. (DMSO-溶解).</p> <p>TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2uvrA.</p> <p>5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.</p> <p>−S9mix 群：25 μg/plate (TA100,TA1535,TA1537： 12.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 50 μg/plate (TA98：25 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 100 μg/plate (WP2uvrA：50 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：125 μg/plate (WP2uvrA：62.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 250 μg/plate (TA1535,TA1537：125 μg/plate で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA100,TA98：250 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常【審 議済み】	<p>陽性</p> <p>D20=0.011mg/ml (+S9mix 群：構造異常)</p> <p>+S9mix 群で構造異常の誘発.</p> <p>純度 99.67%. (DMSO-溶解). CHL/IU.</p> <p>1.4mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>−S9mix 群：0.06mg/ml (細胞毒性のため 0.04mg/ml まで観察)</p> <p>+S9mix 群：0.01mg/ml (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
28 日間 反復投与 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油 (溶解)	
	純度	99.67%	
	用量	4 投与群 (5,20,75,300mg /kg/day)	
	死亡	単回投与：1280：♀1/5、1600：♂2/5・♀2/5、2000：♂2/5・♀5/5	
	NOEL	20mg/kg/day	
	推定根拠	絶対重量 (肝↑：75 以上♀・300♂) 相対重量 (肝↑：75 以上♀・300♂) 血液学的検査 (Plt ↑：75 以上♀) 血液生化学検査 (Cho ↑・PL ↑：75 以上♀)	

	他の毒性	<p>一般状態（流涎：300♀♂）</p> <p>尿検査（尿量↑・比重↓・浸透圧↓：300♀♂）</p> <p>血液学的検査（Hb↓・Hct↓：300♀、PT↑・APTT↑・Plt↑：300♂）</p> <p>組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：300♀♂、 腎－好塩基性尿細管・顆粒円柱・蛋白円柱・遠位尿細管拡張・ 好中球性細胞浸潤：300♀♂）</p>
	回復性	Cho↑、PL↑、TG↑、肝臓重量↑、腎－好塩基性尿細管・顆粒円柱・蛋白円柱
人健康影響判定根拠	<p>第二種監視化学物質として、平成18年7月14日に告示済み。</p> <p>Ames試験陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL20mg/kg/dayであることから第二種監視化学物質相当。</p>	
藻類生長阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法：化審法 TG</p> <p>培養方式：振とう培養</p> <p>試験濃度：設定濃度 0.8、1.5、2.8、5.3、10 mg/L 実測濃度 0.18、0.38、0.92、1.7、3.8 mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤：なし</p> <p>0-72hErC50（実測値に基づく）=1.0 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.18 mg/L</p> <p>① 濃度設定はフィルターろ過により約50%以下に濃度低下すること及び暴露期間中に濃度低下することを考慮して設定している。</p> <p>② 対照区の毎日の生長速度の変動係数33%（繰り返し間は3.0%）</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法：化審法 TG</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：設定濃度 0.20、0.28、0.39、0.55、0.77、1.1 mg/L 実測濃度 0.10、0.15、0.22、0.27、0.43、0.67 mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤：なし</p> <p>48hEiC50（実測値に基づく）=0.33 mg/L</p>	
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i></p> <p>試験法：化審法 TG</p> <p>試験方式：半止水式、24時間毎に換水</p> <p>物質濃度：設定濃度 0.40、0.59、0.89、1.3、2.0、3.0 mg/L 実測濃度 0.21、0.31、0.47、0.78、1.2、1.4 mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50（実測値に基づく）=0.68 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>0.47 mg/L 群：異常呼吸(48hr 1/7、72hr 2/7、96hr 2/7) 遊泳緩慢(72hr 2/7、96hr 2/7) 過敏反応(48hr 2/7)</p> <p>0.78 mg/L 群：異常呼吸(48hr 6/6、72hr 4/4、96hr 3/3) 遊泳緩慢(24hr 1/7、48hr 6/6、72hr 2/4、96hr 1/3) 過敏反応(72hr 1/4、96hr 1/3) 横転(48hr 1/6) 水面浮上(24hr 1/7、48hr 2/6、72hr 1/4、96hr 1/3)</p>	

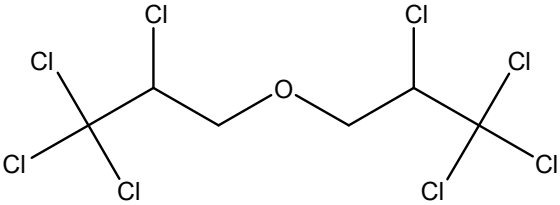
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=1.0mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.33mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.68mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-650	CAS No.	101-84-8
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジフェニルエーテル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.25、0.33、0.44、0.58、0.78 mg/L 実測濃度 0.25、0.32、0.43、0.59、0.78 mg/L (初期実測値) 定量下限以下、0.15、0.22、0.33、0.42mg/L (曝露終了時実測値) ※定量下限=0.1mg/L 助剤：なし 0-72hErC50 (初期実測値に基づく) =0.58 mg/L 0-72hNOECr (初期実測値に基づく) =0.32 mg/L ① 被験物質の濃度低下が生じた原因として、藻体又は藻体分離 (遠心) 用プラスチック容器への吸着であることが考えられたと報告されている。なお、初期実測値は、試験生物を加えない試験液を測定したものであり、遠心操作を行ったものではない。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.48、0.80、1.5、2.0、2.6、4.8 mg/L 実測濃度 0.42、0.76、1.4、1.9、2.5、4.1 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =2.0 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 1.2、2.1、3.8、6.7、12 mg/L 実測濃度 0.87、1.6、3.0、5.0、9.1 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =1.8 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.6 mg/L 群：上層遊泳 (72hr2/9、96hr2/8) 横臥 (72hr3/9、96hr1/8)		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.58mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
環境調査	媒体	実施年度	検体
			検出範囲
			検出下限値

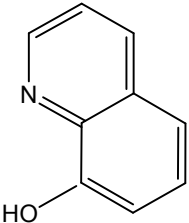
※1	水質	S51	0/88	—	0.6~5(μ g/L)
		S59	0/24	—	0.02~0.08(μ g/L)
	底質	S51	0/28	—	0.1~0.74(μ g/g-dry)
		S59	0/24	—	0.0006~0.003(μ g/g-dry)
魚類	S51	0/20	—	0.15~0.25(μ g/g-wet)	
備考	※1 S52、60版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

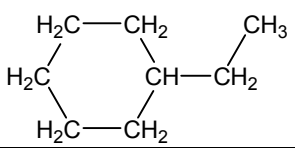
官報公示 整理番号	2-379	CAS No.	127-90-2
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 3, 3, 3, 2', 3', 3', 3' -オクタクロルジプロピルエーテル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：静置培養（1日2回軽く攪拌）（密閉系） 試験濃度：設定濃度 0.0015、0.0047、0.015、0.047、0.15、0.47、1.5 mg/L 実測濃度 0.0015、0.0043、0.013、0.038、0.12、0.39、1.2 mg/L （幾何平均値） 助剤：DMF 0.1mL/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=1.2 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.12 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24時間後に換水（密閉系） 試験濃度：設定濃度 0.0056、0.010、0.018、0.032、0.056、0.10、0.18 mg/L 実測濃度 0.0056、0.0097、0.018、0.030、0.053、0.092、0.17 mg/L （幾何平均値） 助剤：DMF 0.1mL/L 48hEiC50（実測値に基づく）=0.078 mg/L		

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水（密閉系） 物質濃度：設定濃度 0.027、0.047、0.084、0.15、0.27、0.47、0.84、1.5 mg/L 実測濃度 0.025、0.042、0.076、0.14、0.24、0.40、0.71、1.2 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤：DMF 0.1mL/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.59mg/L 120hrLC50 (実測値に基づく) =0.46 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.076mg/L 群：不活発 (72hr 1/10、120hr 1/10) 0.14mg/L 群：不活発 (120hr 1/10) 水面浮上 (120hr 1/10) 0.24mg/L 群：不活発 (96hr 2/10、120hr 6/10) 水面浮上 (72hr 1/10、96hr 1/10、120hr 1/10) 異常遊泳 (72hr 4/10、96hr 4/10、120hr 2/10) 0.40mg/L 群：不活発 (24hr 1/10、120hr 1/7) 水面浮上 (48hr 1/10、120hr 2/7) 異常遊泳 (48hr 1/10、72hr 9/9、96hr 9/9、120hr 4/7) 0.71mg/L 群：水面浮上 (48hr 2/9、72hr 3/6) 異常遊泳 (24hr 2/10、48hr 7/9、72hr 3/6、96hr 3/3)</p> <p>① 難水溶性のため、暴露時間を 120 時間まで延長している。</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.078mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.59mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56 S59 H16	0/24 0/24 0/27、0/9	— — —	0.01~0.025(μ g/L) 0.001~0.002(μ g/L) 0.0045(μ g/L)
	底質	S56 S59 H16	0/24 0/24 0/27、0/9	— — —	0.001~0.0029(μ g/g-dry) 0.00005~0.00023(μ g/g-dry) 0.0026(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S57,60, H17 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) H16-A10</p>				

既存化学物質審査シート

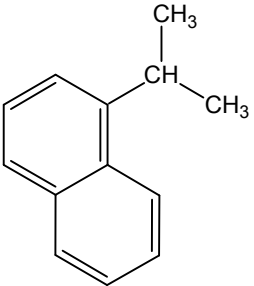
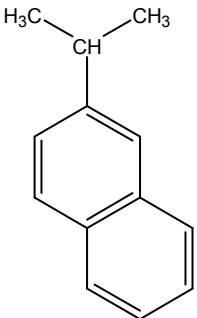
官報公示 整理番号	5-804	CAS No.	148-24-3
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：8-ヒドロキシキノリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.2、0.4、0.8、1.6、3.2 mg/L 実測濃度 0.17、0.32、0.64、1.4、2.8 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.52 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.17 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.46、0.65、0.91、1.3、1.8、2.5 mg/L 実測濃度 設定値の84~100% 助剤：なし 48hEiC50（設定値に基づく）=1.7 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48時間後に換水 物質濃度：設定濃度 0.37、0.67、1.2、2.2、3.9、7.0 mg/L 実測濃度 0.33、0.60、1.1、2.0、3.7、7.1 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=2.5 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.0 mg/L 群：異常呼吸(96hr 1/4) 遊泳緩慢(96hr 1/4) 水面浮上(96hr 1/4) 3.7 mg/L 群：異常呼吸(72hr 3/7、96hr 1/2) 遊泳緩慢(72hr 1/7) 過敏反応(72hr 2/7) 横転(96hr 1/2) 水面浮上(72hr 2/7)		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.52mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.5mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2231	CAS No.	1678-91-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：エチルシクロヘキサン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養（密閉系） 試験濃度：設定濃度 5.0、14、39、110、300 μL/L 実測濃度 0.042、0.064、0.22、0.76、1.9 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.63 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.22 mg/L ① 日間の生長速度の変動係数は 32.6%。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 飽和溶液（WAF）の 9.9、15、22、33、50 % 実測濃度 0.21、0.32、0.49、0.63、0.98 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEiC50（実測値に基づく）=0.67 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 飽和溶液（WAF）の 18、26、36、50、70 % 実測濃度 0.34、0.49、0.62、0.94、1.6 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=0.75 mg/L 120hrLC50（実測値に基づく）=0.67 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.62 mg/L 群：嗜眠状態（48hr 1/7） 0.94 mg/L 群：嗜眠状態（24hr 1/6、96hr 1/2） 表層集中（72hr 1/2、120hr 1/1） 平衡喪失（72hr 1/2） 活動度の低下（72hr 2/2、120hr 1/1） ① 難水溶性のため、暴露時間を 120 時間まで延長している。		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.63mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.67mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.75mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		

備考	
----	--

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-961	CAS No.	29253-36-9
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：イソプロピルナフタレン</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>①1位と2位に結合した混合物であり、存在比は1位:2位=3:7</p>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.6、1.3、2.5、5.0、10 mg/L 実測濃度 0.028、0.079、0.16、0.36、0.84 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =0.25 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.079 mg/L</p> <p>① 設定濃度に関しては、対試験用水溶解度を測定していないと思われるため、飽和溶液を WAF により作成していると考えられる。</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.042、0.076、0.14、0.25、0.44、0.80 mg/L 実測濃度 0.028、0.053、0.10、0.18、0.29、0.59 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.15 mg/L</p>		

<p>魚類急性 毒性</p>	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.37、0.52、0.73、1.0、1.4、2.0 mg/L 実測濃度 0.25、0.33、0.49、0.72、1.1、1.5 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=0.74 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>0.49mg/L 群：異常呼吸(72hr 5/7、96hr 7/7) 遊泳緩慢(48hr 6/7、72hr 6/7、96hr 6/7) 過敏反応(96hr 7/7) 痙攣(72hr 1/7、96hr 3/7) 反転(72hr 1/7、96hr 1/7) 横転(48hr 1/7) 水面浮上(96hr 2/7)</p> <p>0.72 mg/L 群：異常呼吸(24hr 2/7、48hr 6/7、72hr 4/4、96hr 4/4) 遊泳緩慢(48hr 7/7、72hr 4/4、96hr 4/4) 過敏反応(48hr 4/7、72hr 1/4、96hr 1/4) 痙攣(72hr 1/4、96hr 1/4) 反転(48hr 1/7) 水面浮上(48hr 3/7、72hr 1/4、96hr 1/4) 水底停止(48hr 3/7)</p>
<p>生態影響 判定根拠</p>	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.25mg/L、0-72hrNOECr=0.079mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.15mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.74mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
<p>備考</p>	